



—東地中海地域ニュース—

イスラエル：イラン問題で米統合参謀本部議長が来訪

(2月16日付イエディオット・アハロノット紙)

1. 今般、パレン米国統合参謀本部議長がイスラエルを訪問した。その目的は、米国との事前調整なくイスラエルが対イラン攻撃を決定できないことを確認するためであった。米国は、対イラン制裁へと国際社会が動く中で、イスラエルのイラン攻撃によって水を差されないよう、イスラエルの首脳に対して釘を刺した。表面的には笑顔を振り舞いつつ、米国はイスラエルを信頼していない。
2. 同統合参謀本部議長は、イスラエル到着と同時に、予定になかった記者会見を行い、「イラン攻撃による、望ましくない影響」について語るなど、同統合参謀本部議長の今般のイスラエル訪問は米国の外交としては異例であった。
3. イラン制裁をめぐる国際情勢は新たな段階に入っている。
 - (1) 米国情報筋によれば、中国は安保理常任理事国に対して、イランに対して厳しい制裁を科すことに賛成する用意があると伝えた。制裁内容が生ぬるいものであれば、中国は採決の際に棄権または欠席すると述べたようである。米国は、安保理決議抜きに制裁を行うとしても、この中国の動向は大きな成果と捉えている。
 - (2) 最近、米国は某 GCC 国に対し、中国に向けて、イラン産原油に代わる安価な原油を輸出するよう説得に成功した。
 - (3) 米国政府は、独企業シーメンス社に対して、2010年夏以降イランとの関係を断つよう指導した。
 - (4) クリントン米国务長官は、ロシアも制裁に同意することを示唆した。ロシア指導層は、予定されていたイラン高官の同国訪問を取りやめ、ネタニヤフ首相の訪問を実施した。
4. 来月には、バイデン米国副大統領のイスラエル訪問も予定されている。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799